



2026 年 10 月 15 日

各 位

会 社 名 株式会社ルクレ
 代表者名 代表取締役 有馬 弘進
 (コード：648A 東証グロース市場)
 問合せ先 執行役員管理部部長 阿部 雅美
 (TEL. 03-4500-6700)

東京証券取引所グロース市場への上場に伴う当社決算情報等のお知らせ

当社は、本日、2026 年 10 月 15 日に東京証券取引所グロース市場に上場いたしました。今後とも、なお一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、2026 年 9 月期（2025 年 10 月 1 日から 2026 年 9 月 30 日まで）及び 2027 年 9 月期（2026 年 10 月 1 日から 2027 年 9 月 30 日まで）における当社の業績予想は、次のとおりであり、また、最近の決算情報等につきましては別添のとおりであります。

【個別】

(単位：百万円、%)

項目	2027 年 9 月期 (予想)			2026 年 9 月期 (予想)			2026 年 9 月期 第 3 四半期 累計期間 (実績)		2025 年 9 月期 (実績)	
	対売上 高比率	対前期 増減率		対売上 高比率	対前期 増減率		対売上 高比率		対売上 高比率	
売 上 高	4,177	100.0	20.3	3,473	100.0	19.0	2,473	100.0	2,920	100.0
営 業 利 益	1,212	29.0	76.2	688	19.8	108.6	495	20.0	329	11.3
経 常 利 益	1,212	29.0	72.7	701	20.2	105.4	511	20.7	341	11.7
当 期 (四 半 期) 純 利 益	792	19.0	70.9	464	13.4	105.3	316	12.8	226	7.7
1 株 当 たり 当 期 (四 半 期) 純 利 益	97 円 51 銭			60 円 67 銭			41 円 34 銭		29 円 55 銭	
1 株 当 たり 配 当 金	24 円 00 銭			8 円 00 銭			—		8,000 円 00 銭 (8 円 00 銭)	

- (注) 1. 当社は子会社がありませんので、連結財務諸表及び四半期連結財務諸表を作成して
 おりません。
2. 2025 年 9 月期（実績）及び 2026 年 9 月期第 3 四半期累計期間（実績）の 1 株当たり
 当期（四半期）純利益は、普通株式の期中平均株式数により算定しております。
 2026 年 9 月期（予想）の 1 株当たり当期純利益は、普通株式の予定期中平均株式数
 により算定しております。2027 年 9 月期（予想）の 1 株当たり当期純利益は、公募
 による自己株式の処分（500,000 株）を考慮した予定される普通株式の予想期中平均
 株式数により算定しており、オーバーアロットメントによる売出しに関連する第三
 者割当による自己株式の処分（最大 501,000 株）は考慮していません。

3. 2026年9月期（予想）の1株当たりの配当金は8円00銭を予定しております。また、2027年9月期（予想）の1株当たりの配当金は24円00銭を予定しておりますが、2025年9月期（実績）の配当性向（27.07%）をベースとしたうえで、業績動向や経営環境の変化等を踏まえて決定する方針であり、世界経済の急変や災害など、予期せぬ外部要因によって当該配当金は変動する可能性があります。
4. 2026年6月12日開催の取締役会決議により2026年7月1日付で普通株式1株につき1,000株の割合で株式分割を行っておりますが、2025年9月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり当期（四半期）純利益を算定しております。なお、1株当たり配当金については、2025年9月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定した場合の数値を参考までに（ ）内に記載しております。

【2026 年 9 月期及び 2027 年 9 月期業績予想の前提条件】

1. 事業の全体像

当社は、「『記録』で世界をアップデートする。」をミッションに掲げ、建設業界、保育・教育業界、及び自動車等の車体修理・整備業界といった、フィジカルワーカーの現場業務が中心となる産業（フィジカル産業）（注1）に対し、写真を起点とする DX（注2）支援を主たる事業としております。当社の事業は記録 DX プラットフォーム事業の単一セグメントであります。現場で写真等の記録を取得し、記録 AI（注3）で認識・構造化し、クラウド上で共有・活用する共通基盤「記録 DX プラットフォーム」を、建設現場の工事写真等の施工記録を対象とする「施工記録領域」、学校・保育園等で撮影される子どもの写真・動画等の成長記録を対象とする「成長記録領域」及び自動車等の修理・整備記録を対象とする「整備記録領域」の三領域で展開しております。

施工記録領域は「蔵衛門」により建設現場の工事写真を管理するサービスであり、当社の売上の過半を占めるとともに、利益の大半を創出している中核事業であります。成長記録領域は「みんなの写真屋さん」等により学校・保育施設と保護者をつなぐサービスであり、当社における一定の売上規模を構成しておりますが、現時点における全社利益への貢献は限定的であります。また、整備記録領域は「AITURBO」により修理・整備工程を管理する新領域として展開しておりますが、現時点では事業の立ち上げ及び先行投資のフェーズにあり、業績への寄与は軽微となっております。

施工記録領域では、建設 DX プラットフォーム「蔵衛門」を提供しております。当社は、1998 年に販売を開始した買切り版の工事写真台帳編集ソフトウェア「蔵衛門御用達」（フロー型収益）（注4）により、約 11 万社（2026 年 6 月時点）の顧客基盤を構築してまいりました。現在は、この顧客基盤に対し、当該プラットフォームを無制限に利用できるクラウドサービス「蔵衛門プレミアム」（ストック型収益）（注4）への移行を促進するとともに、導入企業内での利用現場・部門の拡大（全社展開）の促進を通じて、契約企業内における利用 ID 数の拡大を図っております。あわせて、工事写真の撮影及び工事情報等の記録・送信を行う専用端末「蔵衛門 Pad」（フロー型収益）や、通信環境を準備しにくい現場向けのデータ通信オプション「ルクレ SIM」（ストック型収益）の導入提案を行っております。この結果、「蔵衛門御用達」の利用顧客のクラウドサービスへの移行が進み、「蔵衛門プレミアム」を中心とするストック型収益が伸長しており、当社は、これを最大の成長ドライバーと位置付けております。

成長記録領域では、地域の写真店・保育園・幼稚園・学校をつなぐオンラインスクール写真販売サービス「みんなの写真屋さん」を中心にサービスを提供しております。行事写真の販売は、従来の紙焼き展示（プリントした写真の掲示による販売）・封筒集金による方式からオンライン販売への移行が進展しており、当社サービスの導入施設及び利用者数は着実に増加しております。

整備記録領域では、施工記録領域及び成長記録領域で培った共通基盤を活用した新たな展開として、2026 年 6 月より、整備記録 AI クラウド「AITURBO」の提供を開始しております。本サービスは提供開始から間もないため、現時点においては事業の立ち上げ及び先行投資のフェーズにあり、当社の業績に与える影響は軽微であります。

このような事業環境を踏まえ、2026 年 9 月期の業績予想につきましては、売上高 3,473 百万円（前期比 19.0%増）、営業利益 688 百万円（同 108.6%増）、経常利益 701 百万円（同

105.4%増)、当期純利益 464 百万円 (同 105.3%増) を見込んでおります。なお、当社は、年度予算及び中期経営計画を每期策定し、実績動向等を踏まえて適時に更新しております。2026 年 9 月期の業績予想は、2025 年 9 月期末に策定した年度予算を基礎として、2025 年 10 月から 2026 年 4 月までは実績値を、2026 年 5 月から 2026 年 9 月までは直近の実績動向等を勘案した見込額を用いて算定しております。

また、2027 年 9 月期の業績予想につきましては、売上高 4,177 百万円 (前期比 20.3%増)、営業利益 1,212 百万円 (同 76.2%増)、経常利益 1,212 百万円 (同 72.7%増)、当期純利益 792 百万円 (同 70.9%増) を見込んでおります。

- (注) 1. 「フィジカル産業」とは、建設、保育・教育、修理・整備、製造、医療・介護など、オフィスではなく実際の「現場」における物理的な作業やサービス提供を中心とする従事者 (フィジカルワーカー) が多くを占める産業をいいます。
2. 「DX (デジタルトランスフォーメーション)」とは、デジタル技術による業務変革をいいます。
3. 「記録 AI」とは、フィジカル産業の現場で取得された写真や映像などの記録データの処理・解析に特化した AI の総称をいいます。
4. 「ストック型収益」とは、クラウドサービス等の継続課金による安定的な収益をいい、「フロー型収益」とは、専用端末販売などの売り切りによる一時的な収益をいいます。

2. 業績予想の前提条件

(1) 売上高

売上高は、事業領域ごとの主要 KPI の過去の実績推移及び季節変動を分析のうえ月次で見込み、これに過去の販売実績に基づく平均販売単価を乗じて、月次ベースで積み上げて算定しております。具体的には、施工記録領域については、蔵衛門プレミアムの利用 ID 数・契約社数・解約率 (チャーンレート)、専用端末の出荷台数、買切り版ソフトウェアの販売本数等に、ID 当たり単価・製品当たり単価等を乗じて算定し、成長記録領域については、アクティブユーザー数 (注 5) に注文率及び平均販売単価、1 人当たり写真枚数を乗じて算定しております。

① 施工記録領域

建設業界の DX 推進を背景に、買切り版ソフトウェア「蔵衛門御用達 2021」等を継続して利用している既存顧客に対しては、データ移行支援等を通じてクラウドサービスへの移行を提案するリテンションマーケティング (注 6) を、新規顧客に対しては全機能を利用可能なフリートライアルの提供及びトライアル利用顧客への導入支援を通じて有料契約への転換を促す PLG (プロダクト・レッド・グロース) 戦略 (注 7) を、それぞれ推進しております。

ストック型収益である「蔵衛門プレミアム」については、2026 年 9 月期末累計利用者数は前期末実績 (95,157ID) に比べ約 4 割の増加を、2026 年 9 月期末累計契約社数は前期末実績 (10,763 社) に比べ約 2 割の増加を見込んでおります。これは、フリートライアルからの有料契約への転換及び既存契約社における利用 ID 数の拡大について、直近の実績を踏まえて見込んだものであります。また、ID 当たり単価等の平均販売単価は、直近の販売実績に基づく単価水

準をもとに設定しております。本業績予想の算定にあたっては、平均月次解約率の実績をもとに、一定の解約率を見込んでおります。

フロー型収益である専用端末「蔵衛門 Pad」等の販売については、過去の出荷実績をもとに、月次の出荷台数を見込んで算定しております。また、ストック型収益である「ルクレ SIM」については、専用端末の出荷台数に対する付帯率（出荷した専用端末のうち、ルクレ SIM を併せて契約した台数の割合をいいます）及び契約満了時の延長率の実績に基づき、月次の契約件数を見込んで算定しております。

フロー型収益である「蔵衛門御用達 2021」の販売については、同製品の利用顧客をクラウドサービスへの移行の対象となる顧客基盤と位置付けていることから、当該移行の進展に伴い漸減することを前提に、製品ごとの販売単価に、月次で一定の割合で逡減するものとして見込んだ販売本数を乗じて算定しております。

以上により、2026 年 9 月期の施工記録領域の売上高は 2,493 百万円（前期比 24.0%増）を見込んでおります。なお、2026 年 9 月期第 3 四半期累計期間の施工記録領域の売上高（実績）は 1,754 百万円であります。

2027 年 9 月期につきましては、クラウドサービスへの移行のさらなる進展により、期末累計利用者数は 2026 年 9 月期末見込みに比べ約 26%の増加を、期末累計契約社数は同約 21%の増加を見込み、施工記録領域の売上高は 3,188 百万円（前期比 27.9%増）を見込んでおります。

② 成長記録領域

「みんなの写真屋さん」につきましては、近年、学校・保育施設における教職員の業務負担軽減や非対面・キャッシュレス化への対応を背景に、行事写真販売のオンライン方式への移行が進んでおり、当社サービスの利用も着実に拡大しております。2026 年 9 月期の年間累計アクティブユーザー数（YAU）は前期実績（218,481ID）に比べ約 5 %の増加を見込んでおります。これは、写真販売のオンライン方式への移行の浸透に伴う導入施設の増加等、直近の利用実績の推移を踏まえたものであります。

以上により、2026 年 9 月期の「みんなの写真屋さん」の売上高は 947 百万円（前期比 6.3%増）を見込んでおります。これに加え、関連サービス等の寄与を見込み、成長記録領域の売上高は 959 百万円（前期比 6.1%増）を見込んでおります。なお、2026 年 9 月期第 3 四半期累計期間の成長記録領域の売上高（実績）は 710 百万円であります。

2027 年 9 月期につきましては、「みんなの写真屋さん」において、写真店を販売主体とする ASP 型から当社が販売主体となるプラットフォーム型への移行により当社が売上高として計上する範囲が拡大しており、2026 年 9 月期の期中に移行した施設分の影響が初めて通期で寄与することを主な増収要因として、成長記録領域の売上高は 969 百万円（前期比 1.1%増）を見込んでおります。なお、年間累計アクティブユーザー数（YAU）は前期並みの水準を前提としております。

③ 整備記録領域

整備記録領域は、2026 年 6 月にサービスの提供を開始した整備記録 AI クラウド「AITURBO」により構成され、2027 年 9 月期より事業領域として区分しております。2027 年 9 月期の整備記

録領域の売上高は、サービスの提供開始後間もないことを踏まえ、直近の月次販売実績の水準が継続することを前提に保守的に見込み、15 百万円を計画しております。

④ その他

2026 年 9 月期のその他の売上高は 21 百万円を見込んでおります。その主な内容は、受託案件等に係る売上高であり、このほか 2026 年 9 月期にサービスの提供を開始した整備記録領域に係る売上高を含んでおります。これらは施工記録領域及び成長記録領域のいずれにも含めておりません。2027 年 9 月期のその他の売上高は、受託案件等について確度の高いものに限定して見込み、4 百万円を計画しております。

以上の結果、2026 年 9 月期の売上高は 3,473 百万円（前期比 19.0%増）を見込んでおります。なお、2026 年 9 月期第 3 四半期累計期間の売上高（実績）は 2,473 百万円であります。

2027 年 9 月期の売上高は 4,177 百万円（前期比 20.3%増）を見込んでおります。

（２）変動費

当社は、費用を変動費と固定費に区分して管理しており、売上高から変動費を控除した貢献利益から固定費を控除して営業利益を算定しております。変動費は、主に蔵衛門 Pad 等の仕入原価、みんなの写真屋さんに係る写真プリント等の外注費及びルクレ SIM の通信原価等、売上高に連動して発生する費用で構成されており、サービスごとの売上高に過去の実績に基づく変動費率を乗じて算定しております。

2026 年 9 月期及び 2027 年 9 月期の変動費は、売上高の増加に伴い増加するものの、変動費率の低いストック型収益（蔵衛門プレミアム）の構成比上昇により、その増加率は売上高の増加率を下回る見込みであります。

以上の結果、2026 年 9 月期の変動費は 1,321 百万円（前期比 9.1%増）、貢献利益（売上高から変動費を控除した利益をいいます）は 2,152 百万円（同 26.0%増）を見込んでおります。なお、2026 年 9 月期第 3 四半期累計期間の変動費（実績）は 947 百万円、貢献利益（実績）は 1,525 百万円であります。

2027 年 9 月期の変動費は 1,356 百万円（前期比 2.6%増）、貢献利益は 2,821 百万円（同 31.1%増）を見込んでおります。

（３）固定費

固定費は、主に人件費、開発・サーバー費用、販売促進費及びその他の費用で構成されております。

人件費は、各部門における一人当たり人件費に人員数を乗じて算定しております。人員数は、事業拡大に向けたエンジニア及び営業体制の強化を中心とする当社の採用計画に基づき見積もっております。開発・サーバー費用は、開発部門の外注費及びサーバー利用料等で構成され、クラウドサービスの利用拡大及び機能拡張に向けた開発体制の強化を織り込んで算定しております。販売促進費は、主に施工記録領域における新規顧客獲得のための広告出稿（蔵衛門 Pad の販売促進及び蔵衛門カメラアプリの無料トライアル獲得に連動した広告）に充当し、そのほか成長記録領域や新規事業の広告宣伝に使用を見込んで算定しております。

以上の結果、2026 年 9 月期の固定費は 1,464 百万円（前期比 6.2%増）、営業利益は 688 百万円（同 108.6%増）を見込んでおります。なお、2026 年 9 月期第 3 四半期累計期間の固定費（実績）は 1,029 百万円、営業利益（実績）は 495 百万円であります。

2027 年 9 月期の固定費は 1,609 百万円（前期比 9.9%増）、営業利益は 1,212 百万円（同 76.2%増）を見込んでおります。

（４）営業外損益、経常利益

営業外収益は、直近の実績に基づき 2026 年 9 月期は、16 百万円を見込んでおります。その主な内訳は、通信回線契約の獲得支援に係る販売奨励金（15 百万円）であります。営業外費用につきましては、上場関連費用（支払報酬等）等として 2 百万円を見込んでおります。

以上の結果、2026 年 9 月期の経常利益は 701 百万円（前期比 105.4%増）を見込んでおります。なお、2026 年 9 月期第 3 四半期累計期間の経常利益（実績）は 511 百万円となっております。

2027 年 9 月期につきましては、現時点において重要な営業外損益を見込んでおらず、経常利益は 1,212 百万円（前期比 72.7%増）を見込んでおります。

（５）特別損益、当期純利益

特別利益及び特別損失は見込んでおりません。法人税等は、利益計画及び見積実効税率に基づき算定しております。

以上の結果、2026 年 9 月期の当期純利益は 464 百万円（前期比 105.3%増）を見込んでおります。なお、2026 年 9 月期第 3 四半期累計期間の四半期純利益（実績）は 316 百万円であります。

2027 年 9 月期の当期純利益は 792 百万円（前期比 70.9%増）を見込んでおります。

- （注） 5. 「アクティブユーザー数」とは、当該年度内に「みんなの写真屋さん」の販売サイトで一度でもセキュリティキーを認証した保護者の数（年間累計アクティブユーザー数（YAU））をいい、写真の購入の有無を問わず、当社が接点を有する保護者基盤の規模を示すものであります。
6. 「リテンションマーケティング」とは、既存顧客との関係を維持し、継続利用や上位プランへの転換を促すマーケティング手法をいいます。
7. 「PLG（プロダクト・レッド・グロース）」とは、全機能のフリートライアル提供など、プロダクトの利用体験自体を営業の起点として新規顧客の獲得を推進する戦略をいいます。

【業績予想に関するご留意事項】

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は、経済状況の変化、市場環境の変化及び他社との競合等の様々な要因により、予想数値と異なる可能性があります。

以 上

2026年 9 月期 第 3 四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2026年10月15日

上 場 会 社 名 株式会社ルクレ 上場取引所 東
コ ー ド 番 号 648A URL https://lecre.jp/
代 表 者 (役職名)代表取締役 (氏名)有馬 弘進
問合せ先責任者 (役職名)執行役員 管理部部長 (氏名)阿部 雅美 (TEL) 03 (4500) 6700
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 無
決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年 9 月期第 3 四半期の業績（2025年10月 1 日～2026年 6 月30日）

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年 9 月期第 3 四半期	2,473	—	495	—	511	—	316	—
2025年 9 月期第 3 四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

	1 株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1 株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
2026年 9 月期第 3 四半期	41	34	—	—
2025年 9 月期第 3 四半期	—	—	—	—

- (注) 1. 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、当社は非上場であるため、期中平均株価が把握できませんので記載しておりません。
2. 2025年 9 月期第 3 四半期においては、四半期財務諸表を作成していないため、2025年 9 月期第 3 四半期の数値及び2026年 9 月期第 3 四半期の対前年同四半期増減率は記載しておりません。
3. 当社は、2026年 7 月 1 日を効力発生日として普通株式 1 株につき1,000株の割合で株式分割を行っております。2026年 9 月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1 株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年 9 月期第 3 四半期	2,171	847	39.0
2025年 9 月期	1,616	592	36.6

(参考) 自己資本 2026年 9 月期第 3 四半期 847百万円 2025年 9 月期 592百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第 1 四半期末	第 2 四半期末	第 3 四半期末	期末	合計
	円	円	円	円	円
2025年 9 月期	—	0.00	—	8,000.00	8,000.00
2026年 9 月期	—	0.00	—	—	—
2026年 9 月期(予想)	—	—	—	8.00	8.00

- (注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無
2. 当社は、2026年 7 月 1 日を効力発生日として普通株式 1 株につき、1,000株の割合で株式分割を行っております。2025年 9 月期については、当該株式分割前の実際の配当額を記載しております。

3. 2026年 9 月期の業績予想（2025年10月 1 日～2026年 9 月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1 株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,473	19.0	688	108.6	701	105.4	464	105.3	60.67

- (注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無
2. 2026年 6 月12日開催の取締役会決議により2026年 7 月 1 日付で普通株式 1 株につき1,000株の割合で株式分割を行っております。なお、上記の 1 株当たり当期純利益は、当該株式分割後の金額で記載しております。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2026年9月期3Q	9,500,000株	2025年9月期	9,500,000株
2026年9月期3Q	1,850,000株	2025年9月期	1,850,000株
2026年9月期3Q	7,650,000株	2025年9月期3Q	一株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

(注) 1. 2025年9月期第3四半期においては、四半期財務諸表を作成していないため、期中平均株式数を記載しておりません。

2. 当社は、2026年7月1日を効力発生日として普通株式1株につき1,000株の割合で株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「期末発行済株式数」「期末自己株式数」及び「期中平均株式数」を算定しております。

※ 添付される四半期財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なることがあります。

なお、上記業績予想に関する事項は、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等の注記)	7
(四半期キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社は、『記録』で世界をアップデートする。」というミッションのもと、“写真”や“映像”をビジネスの主軸として、サービスを展開しております。

総務省が公表している「情報通信白書」によれば、近年様々な要因により拡大しているデジタルデバイド（情報格差）の解消に向けた取り組みの重要性が指摘されております。一方で少子高齢化に伴う慢性的な人手不足のほか、2017年3月に政府が決定した「働き方改革実行計画」、いわゆる「働き方改革」により2019年4月の改正労働基準法の施行から5年後となる2024年4月より建設業界等でも罰則付きの時間外労働の上限規制が適用されております。様々な業界における生産性向上に対する強いニーズから、多様な業務のDX化が社会的な課題となっております。

上記「働き方改革」に伴う規制は、建設業や製造業、物流、ヘルスケア、小売等、日々現場で働くフィジカルワーカーの働き方に大きく影響を及ぼしております。フィジカルワーカーは日本の労働人口の約6割を占める巨大な市場ですが、業務にPCを利用しない職場環境なども影響し、DX化が進んでおりません。当社は、これらの課題解決に向けて、当社が保有する写真×テクノロジーによる「記録」をキーに、迷わず使えるやさしいDXサービスを提供しております。

当社は「記録DXプラットフォーム事業」の単一セグメントであり、かかる市場環境においてフィジカル産業の現場における記録のデジタル化を推進しております。

建設・工事現場向けの施工記録領域では、1998年発売の台帳作成ソフト「蔵衛門御用達」の提供を通じて構築した約11万社の既存顧客基盤に対し、ストック型の施工記録AIクラウド「蔵衛門プレミアム」への移行を促進すべく、リテンションマーケティングの強化に継続して取り組みました。同時に、アナログな顧客体験を踏襲したUI/UXと、全機能のフリートライアル提供を強みとしたプロダクト・レッド・グロース（PLG）戦略により、新規顧客の獲得も推進いたしました。

これらの施策の結果、施工記録領域は堅調に推移し、2026年6月末時点における「蔵衛門プレミアム」の累計ID数は122,380IDに達し、累計契約社数は12,264社に拡大しております。

また、同プラットフォームを他領域へ水平展開する保育・教育現場向けの成長記録領域では、スクール写真の販売サービス「みんなの写真屋さん」が好調に推移しました。また、子どもの顔認識AIを搭載した、保育園・幼稚園と保護者をつなぐ成長共有サービス「せんせいみて!」、卒園アルバム作成サービス「うちの子アルバム」を展開するなど、新たな収益獲得サービスの拡大に注力しております。

その結果、当第3四半期累計期間の売上高は2,473,261千円、営業利益は495,483千円、経常利益は511,444千円、四半期純利益は316,258千円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期会計期間末の流動資産は、前事業年度末に比べ564,121千円増加し、2,054,595千円となりました。これは主に、現金及び預金が431,110千円増加、仕入により製品が111,605千円増加、売掛金が49,155千円増加、前渡金が12,751千円減少したことによるものです。

固定資産は、前事業年度末に比べ9,491千円減少し、116,650千円となりました。これは主に、長期前払費用が13,459千円増加、繰延税金資産が12,990千円減少、建物附属設備が2,917千円減少、工具、器具及び備品が2,645千円減少したことによるものです。

この結果、総資産は、前事業年度末に比べ554,631千円増加し、2,171,246千円となりました。

(負債)

当第3四半期会計期間末の流動負債は、前事業年度末に比べ299,573千円増加し、1,323,743千円となりました。これは主に、契約負債が247,150千円増加、未払法人税等が160,398千円増加、未払消費税等が49,499千円減少、未払費用が43,026千円減少したことによるものです。

その結果、当第3四半期会計期間末の負債合計は、前事業年度末に比べ299,573千円増加し、1,323,743千円となりました。

(純資産)

当第3四半期会計期間末の純資産は、前事業年度末に比べ255,058千円増加し、847,503千円となりました。これは、四半期純利益の計上により316,258千円増加、配当金の支払いにより61,200千円減少したことによるものです。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年9月期の業績予想につきましては、本日公表の「東京証券取引所グロース市場への上場に伴う当社決算情報等のお知らせ」をご参照ください。

なお、当該業績予想は、当社が現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後の様々な要因により、予想数値と異なる可能性があります。

以上

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年9月30日)	当第3四半期会計期間 (2026年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,108,585	1,539,695
電子記録債権	2,200	—
売掛金	180,638	229,793
製品	110,718	222,323
商品	19,486	18,195
前渡金	46,408	33,657
前払費用	22,174	10,712
その他	326	282
貸倒引当金	△65	△65
流動資産合計	1,490,474	2,054,595
固定資産		
有形固定資産		
建物附属設備	60,431	60,431
減価償却累計額	△34,557	△37,474
建物附属設備（純額）	25,873	22,956
工具、器具及び備品	25,267	27,480
減価償却累計額	△15,245	△20,103
工具、器具及び備品（純額）	10,022	7,377
有形固定資産合計	35,895	30,333
無形固定資産		
ソフトウェア	5,109	2,689
無形固定資産合計	5,109	2,689
投資その他の資産		
敷金及び保証金	69,537	67,558
長期前払費用	—	13,459
繰延税金資産	15,599	2,609
投資その他の資産合計	85,136	83,628
固定資産合計	126,141	116,650
資産合計	1,616,615	2,171,246

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年 9 月30 日)	当第 3 四半期会計期間 (2026年 6 月30 日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	161, 536	137, 429
未払金	31, 933	27, 269
未払費用	79, 900	36, 874
未払法人税等	14, 768	175, 166
未払消費税等	74, 560	25, 061
契約負債	658, 164	905, 314
預り金	3, 086	6, 754
その他	221	9, 872
流動負債合計	1, 024, 170	1, 323, 743
負債合計	1, 024, 170	1, 323, 743
純資産の部		
株主資本		
資本金	30, 000	30, 000
利益剰余金		
利益準備金	7, 500	7, 500
その他利益剰余金		
別途積立金	70, 000	70, 000
繰越利益剰余金	524, 467	779, 525
利益剰余金合計	601, 967	857, 025
自己株式	△39, 522	△39, 522
株主資本合計	592, 444	847, 503
純資産合計	592, 444	847, 503
負債純資産合計	1, 616, 615	2, 171, 246

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	当第3四半期累計期間 (自2025年10月1日 至2026年6月30日)
売上高	2,473,261
売上原価	1,192,942
売上総利益	1,280,319
販売費及び一般管理費	784,835
営業利益	495,483
営業外収益	
受取利息	1,116
キャッシュバック収入	15,120
その他	43
営業外収益合計	16,280
営業外費用	
為替差損	318
営業外費用合計	318
経常利益	511,444
税引前四半期純利益	511,444
法人税、住民税及び事業税	182,196
法人税等調整額	12,989
法人税等合計	195,186
四半期純利益	316,258

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

当社事業は、記録DXプラットフォーム事業の単一セグメントのため、記載を省略しております。

(四半期キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、当第3四半期累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

当第3四半期累計期間 (自2025年10月1日 至2026年6月30日)	
減価償却費	11,996千円